私と胃癌

山村 義孝

Yoshitaka YAMAMURA

愛知県国民健康保険団体連合会審査専門嘱託員

［経歴］

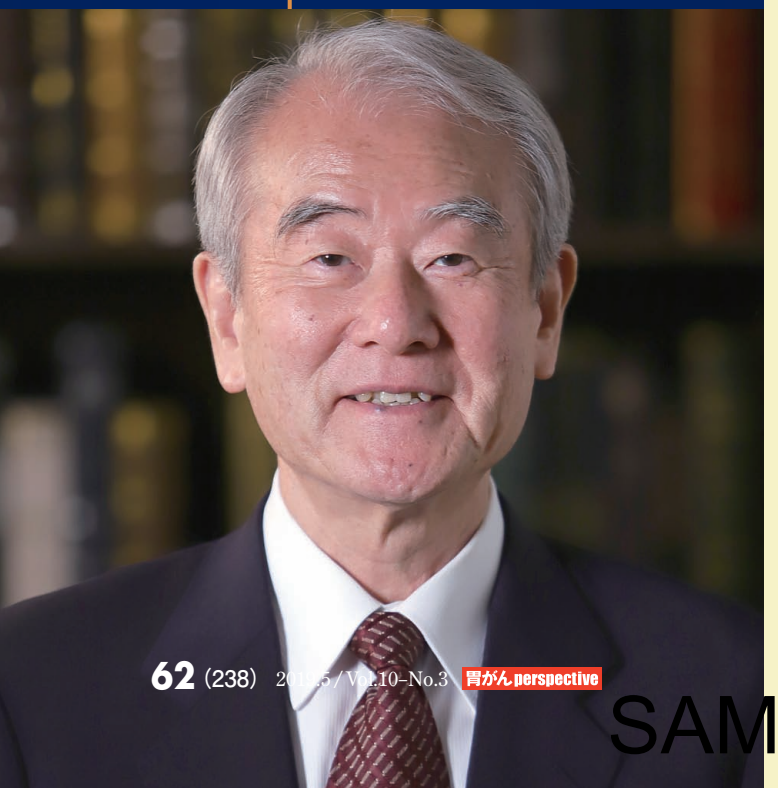
1969年　名古屋大学医学部卒業
1970年　岐阜県厚生連中濃総合病院外科医員
1978年　名古屋大学第二外科研究生
1982年　愛知県がんセンター第三外科（現消化器外科）医長
1988年　愛知県がんセンター消化器外科副部長
1994年　愛知県がんセンター病棟部長
2003年　愛知県がんセンター血液管理部長
2004年　愛知県がんセンター中央病院消化器外科部長
2009年　名古屋記念病院外科系特別顧問
2015年　現職（愛知県国民健康保険団体連合会審査専門嘱託員）

［趣味］

切手蒐集，旅行

［座右の銘］

至誠



第8回

網嚢切除の有用性についての研究

はじめに

私が医師になった昭和44年（1969年）当時，外科医にとって最もポピュラーな悪性腫瘍は胃癌であり，自ずとその診断・治療にかかわることになった。

診断用機器のうち，バリウムによる消化管透視装置として，今日のような遠隔操作によるX線テレビジョンが普及していたが，暗室内で患者さんとの間に蛍光板を置いて対面式に透視を行う旧式の装置も使われていた。内視鏡検査でも，すでにファイバースコープが導入されていたが，旧式のVa型胃カメラも使われていた。これらの検査機器の過渡期

SAMPLE

Copyright(c) Medical Review Co.,Ltd.